

③ 将来ビジョン（Aさん）

どういう目的で何をしたかと言うと、その当時「虹色の里横島」は活動も5年目を過ぎて、少し方向性を見失っているとのことでした。これまでの活動のテーマは「交流による地域の活性化」でしたが、引き続き「交流を促進することで地域の活性化をしよう」ということを目的に、まず「活動の基本方針を再検討しよう」、二つ目に活動を進めながら「活動環境を整備しよう」、三つ目に「新しい事業でこれからどんなことをやっていくか実験をしよう」、この三つを昨年度の事業のテーマにして活動してきました。成果は「虹色の里横島 虹色プラン」という冊子です。このような冊子を作る際には、普通コンサルタントに100%というくらい委託して作りますが、「虹色の里横島」のメンバーは自分たちで作ろうとほとんど90%手作りで、あとの10%を仕上げていただきました。皆さんの「あれもしたい、これもしたい、こんなにしたい」という話をまとめました。



そして二つ目は、この看板です。看板屋さんに聞くと越知町では一番大きいそうです。今まで横島は観光地でもなんでもなかったのに、役場もここに観光の案内板を作っていませんでした。昨年、ふるさとの資源を勉強しているうちに「これは値打があるぞ」と、私たちが来ていただいた方に説明をできない時でも、地域のことを伝えたい、わかるようにしておきたいと一つ目を作りました。今年は、例えば松山街道の場合、松山街道がどんなに使われていたのかがわかるものを作る予定にしています。

そしてこの「虹色プラン」の中で、今後どういうふうにしていくか、テーマを決めました。「先人から継承した農山村の暮らしを活かした、地域内外の交流による元気な横島」を作することをテーマにして、三つの柱を立てました。一つ目は「農山村にみがきをかける」です。大山祇神社をもっと価値のあるものにするにはどうしたらいいかということ。それから、人も地域資源ですので、私たち自身もみがきをかけていこうとしています。二つ目の柱は、地域の小学校が平成15年に休校になり、いろいろな活動の度に地域の人たちがこの学校を使用しています。学校に非常に愛着心があります。そこで「学校を活かそう」ということで、宿泊施設、ホテルにしよう、それから加工して付加価値をつけていきたい。ここ横島から言えば、越知や佐川、日高などや高知市内も地産外商になりますので、地産外商ができるような付加価値のあるところを整備していこうと、学校には三つの機能を持たせたいと考えています。宿泊機能、横島西部公民館機能、三つ目が加工です。それをどういうふうにするかは、国土交通省の事業でいろいろな講師も雇えますし、いろいろなこともできますので、今年1年かけてつめていき、来年町長にそれをお渡しして、応援をさせていただこうと計画しています。三つ目の柱が、この「虹色の里横島」発足以来ぶれずにやってきた、「人と人とのつながりを大切にする」です。まずは運営体制の強化ということで、

事務局体制を強化する。都会から若者を移住させるような事業を導入して、地域のいろいろなことを体験してもらいながら、気に入ったら住み着いていただくという取り組みを今年試験的にやろうという目標設定をしています。ではいつまでにするのかという5W1Hですが、5年先です。5年先までの年次計画を立てています。

現在、高知県は官民をあげての産業振興計画の実現が最大の課題として取り組んでいますので、私たち「虹色の里横島」も大きな期待を寄せています。その制度をぜひ活用したいと思っています。この地域にとっては、産業振興と同時に地域振興が非常に大事になると思います。「虹色の里横島」では、どちらかという地域振興に重点を置いた計画にしました。

今年の取り組みを展望して、この事業や今までの活動を通して得られたことを今から皆さんにも報告し、またご意見もいただきたいと思っています。

まずひとつは、交流によって人が入ってきました。参加者の大半が今リピーターとなり、親戚のような付き合いも始まっています。人に見られるということが地域をみがくための一番の近道です。

次に、来る人だけではなく、自分たちも満足しないといけません。来てくれた人の満足げな顔を見たり、声を聞いたり、アンケートを見たり、そのことによって私たち自身がやりがいを感じる。「またやろう」、「もっとやろう」と元気をもらっています。これが地域の活力になると思います。win-winの関係、自分たちだけがよくてもいけません。相手に喜んでもらうことが大事です。相手の方も、「私たちが来てお茶を摘んだり、繰り返して来ることが地域の人にも喜んでもらえている」と思ってもらえる関係が大事です。

三つ目は地域の協力者が増えてきたということです。会員になって活動に参加する人もいれば、行事がある度に必ず顔を出してくれる人もいます。去年の「いも煮会」で連続6回参加をした人に会長が感謝の品をお渡ししました。地元の方で今日も来てくださっています。地元の方が続けて見に来てくれることが励みになっています。これも協力者のひとりではないかなと思います。

「虹色の里横島」としては、「交流・体験型観光の受入れ団体としてさらに発展をしたい」と思っています。先日、高知市内のホテルに講師に来ていただいた体験型の研修会にも参加し、勉強してきました。その他に、「空き家・空き農地などを活用したい」ということで調べてみたら、10件くらいありました。それに関しては、「もうどうでもして」という持ち主もいますので、ぜひ地域外の方に週末だけでも来ていただき、いろいろなことに参加をしていただけたらいいと思います。そして最後が、「人のつながりを大切にきて来訪者を増やしたい」ということで、去年は自然案内人講座をやり、地元や越知のまちから30人くらいの方に参加していただきました。これからもどんどんそういうことをしたいと思っています。

④ 活動における課題（Aさん）

今後の課題は、三つあります。まず事務局体制、企画力、企画とか情報発信です。例えばホームページなどをこれからやっていきます。それから小学校の活用には、建築費がいります。三つ目は他の団体との交流。民間の団体ですが、行政や大学などにもどんどん入っていただきたいです。